

ネイティブチキンマリックデヒドロゲナーゼ（オキサロ酢酸脱炭酸酵素）

Cat. No. NATE-0446

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 マリック脱水素酵素（MDH）は、真核細胞内に2つのアイソフォームとして存在します。1つはミトコンドリアで発現し、TCAサイクルで機能し、もう1つは細胞質にあり、ミトコンドリアからのマレーートをオキサロ酢酸に還元する役割を果たします。

用途 マリック脱水素酵素は、若いイエローフィッシュ（*Pelteobagrus fulvidraco*）の食事中的マンガン必要量を評価し、全身のミネラル組成および肝臓の中間代謝への影響を調べる研究に使用されました。また、ランシャン鶏からの線維芽細胞株の確立と生物学的特性を調べる研究にも使用されました。

別名 マリック酵素 (あいまい); ピルビン酸-マリックカルボキシラーゼ (あいまい); マレーート脱水素酵素 (脱炭酸, NADP+); NADP+結合脱炭酸マリック酵素; NADP+-マリック酵素; NADP+特異的マリック酵素; NADP+特異的マレーート脱水素酵素; マレーート脱水素酵素 (NADP+, 脱炭酸); L-マレーート:NADP+オキシドレダクターゼ; EC 1.1.1.40; 9028-47-1

製品情報

種	鶏肉
由来	鶏レバー
形態	硫酸アンモニウム懸濁液; 10 mM カリウムリン酸塩、0.5 mM 2-メルカプトエタノール、10 mM 塩化マンガン、3 mM Na4EDTAを含む2.9 M (NH4)2SO4溶液中の懸濁液、pH 6.0
EC番号	EC 1.1.1.40
CAS登録番号	9028-47-1
活性	10-30 ユニット/mg タンパク質（修正ワールブルグ-クリスチャン）
単位定義	1ユニットは、pH 7.4、25°Cで1分あたり1.0 μmoleのL-マレーートとNADPをピルビン酸、CO2、およびNADPHに還元します。

保管・発送情報

保存方法 2-8°C